

変形性関節症のない股関節痛に対する 鏡視下手術と術後リハビリテーションの実際

開催日：2019年7月14日(日)
会 場：仙台国際センター 会議棟 2F 桜

共催：第35回 日本義肢装具学会学術大会
日本シグマックス株式会社

演者



産業医科大学若松病院
整形外科 診療教授

内田 宗志 先生

座長



秋田大学大学院
医学系研究科 医学専攻
機能展開医学系 整形外科科学講座 助教

木島 泰明 先生

大腿骨寛骨臼インピンジメント (FAI)

変形性関節症のない股関節痛について、これまで診
断が困難な症例が増えています。鏡視下手術による原因を解明し、原因を除去することが可能です。レイヤーダイナミクスと呼ばれる新しいアプローチがあります。

股関節の最深部にあたるのが骨軟骨レイヤーです。ここを疼痛の原因とする疾患のひとつに、「大腿骨寛骨臼インピンジメント (femoroacetabular impingement: FAI)」があります。

FAI とは、股関節と骨盤の解剖学的な骨形態異常により、大腿骨近位部と骨盤（主に寛骨臼）が異常に接触することで起こる病態です¹⁾。この異常接触によって関節唇や関節軟骨が損傷し、変形性股関節症に進行することがあります。

FAI を形態学的に分類すると Pincer タイプと Cam タイプ、ならびに両者が併存する Combined (Mixed) タイプが挙げられます (図 1)。Pincer タイプは、寛骨臼の突出によって生じた大腿骨の過被覆がインピンジメ

ントを引き起こします。関節唇が損傷する可能性があります。

資料全編のダウンロードは
こちらから

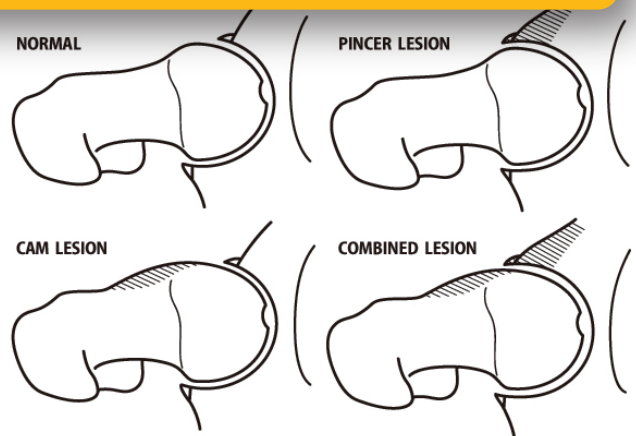


図 1 FAI の形態学的分類